第２号様式

〈１Ｐ〉

令和　年度宮城県ＮＰＯ等による心の復興支援事業補助金　事業計画書

|  |
| --- |
| 申請団体名 |
| ●●法人みやぎ社会貢献協議会 |
| 申請事業名 |
| みんなの特技ですばらしいみやぎをつくるための復興支援事業 |
| 申請額**（千円以下切り捨て）** |
| 1,800,000円（税込） |
| 申請団体住所 |
| 〒980-8570　仙台市青葉区本町３丁目８番１号 |
| 代表者役職 | 代表者氏名 |
| 理事長 | 宮城　花子 |
| 団体電話番号 | 団体メールアドレス |
| 000-000-0000 | abc@ def.gl.jp. |
| 担当者所属 |
| 事業担当部　渉外担当 |
| 担当者所属住所 |
| 〒申請団体住所と同じ |
| 担当者役職 | 担当者氏名 |
| 事務局長 | 仙台　太郎 |
| 担当者電話番号 | 担当者メールアドレス |
| 090-000-0000 | Abc\_9@ def.gl.jp. |
| 対象地域（できる限り具体的に記載して下さい。※災害公営住宅名での実施を想定している場合、具体の住宅名を記載して下さい。） |
| ●●市●●災害公営住宅，●●町●●地区　等 |
| 事業の種類（下記のうち当てはまる種類の番号に　を付してください。）複数回答可 |
| 　１．農業　　２．水産業　　３．伝統文化の継承活動・まちづくり等　　４．ものづくり等　　５．世代間交流　６．震災の記憶の風化防止　　　　７．地域活性化の取組　　８．その他（　　　　　　　　　　） |

第２号様式

〈２Ｐ〉

（被災者にどのようなニーズがあり，そのニーズをどのように把握したのか，被災者が主体的に参画しているか，継続した取り組みであるか，一過性の取り組みでないか等を踏まえ，ご記載ください。）※左記（　）の文章を削除してから記入してください。

|  |
| --- |
| 申請事業の目的・概要（５００文字以内で簡潔に記入してください。） |
| ・昨年度●●地域で実施したサロン活動にて，少数であるが△△地域の住民も参加しており，自地域の様子について伺ったところ，△△地域で孤立した世帯が○世帯ほどある，という話を聞いた。・●●地域にて，引きこもり解消やコミュニティ形成に一定以上の効果があったため，△△地域においてのニーズを把握する目的で事前のアンケート調査を実施したところ，住民の○％が心に何らかの不安を感じていることが判明した。・●●地域にてお茶飲みサロン活動に参加していた被災者を中心に，△△地域で同様のお茶飲みサロン活動が行えるよう，企画，運営等を行い，徐々に△△地域の住民参加率を増やしていく。・地域の高齢者が地域の若者に着付けを教えたり，逆に若者が高齢者にスマホを教えたりする講座を実施するなかで，信頼関係を構築していく。・その他，被災者自身がほかの被災者に教えることができる得意なこと（カメラやSNSなど）をサロンの中で見いだし，被災者を講師（無償）として講座を実施する。・参加を重ねた△△地域の住民らの中から，企画や運営に参画してもらう方も増やし，住民主体でコミュニティ活動が円滑に循環するよう導く。（484文字） |
| 申請事業に企画・運営等に携わり，主体的に参画する被災者人数 | 実人数 | 延べ人数 |
| 10人 | 150人 |
|  |
| 見込まれる成果（５００文字以内で簡潔に記入してください。） |
| ・実施回数サロン56回実施，各種講座合計3回程度実施，クリスマス会1回，振り返り反省会等１回実施予定。・引きこもりがちな被災者が外出し，近所づきあいが始まることで，被災者が孤立化するリスクを軽減する。・人と人とのつながりにより，もっと生きてみようという意識が生まれる。・被災者がサロンの企画運営に携わることで，被災地で自発的かつ新たなサロンが生まれる。・サロンの企画運営の中で，人から必要とされる機会に恵まれ，自己肯定感が高まる。・お互いの得意分野（着付けやスマホ講座等）を互いに教え合うことで，自己肯定感が高まる。・近所づきあいが活発になることで地域全体の連帯感が高まり，地域そのものが元気になる。・無口な方が饒舌になり，周りの空気が明るくなる。・地域での共通の話題が増えることで，被災者同士での知り合いが増える。（357文字） |
| 成果の測定方法 |
| 　アンケート調査を実施し，昨年度からの差異等を分析し，当団体HPにて公表する。　●●市役所の●●課と協力しながら孤立した被災者を外に導き出し，その人数にて測定する。（被災者の心の復興効果や，費用対効果等，事業によって見込まれる成果について、直接的な効果（アウトプット）と波及的効果（アウトカム）の観点から簡潔に記載してください）※左記（　）の文章を削除してから記入してください。 |
| 参加見込人数 | 実人数 | 延べ人数 |
| 災害公営住宅等居住被災者 | 250人 | 2500人 |
| その他被災者（居住形態は不明だが被災者と思われる者） | 50人 | 500人 |
| 被災していない地域住民（震災当時他県住民だった等） | 10人 | 20人 |
| その他（来訪者等） | 10人 | 100人 |

第２号様式

〈３Ｐ〉

|  |
| --- |
| 今後の見通し（令和８年度以降）※枠内の記載例を削除してから記入してください。 |
| ＜実施期間＞　令和８年度～令和１０年度＜取組内容＞　令和８年度：●●地域にて●●事業を継続して実施。　令和９年度以降：●●地域でのコミュニティ形成を見届け，△△地域にて事業を実施（以下完了まで続けるもの。）＜実施期間中の各年度の予算額、財源＞ 令和８年度　予算額：2,500千円　　　　　　　　　　財源：●●被災者支援事業助成金 1,500千円　　　　　　　　　　　　　　　　●●財団の助成事業 500千円 自己収入 500千円　　　　　　　　　　　　　　　　・　　　　　　　　　　　　　　　　・　 令和１０年度　予算額：2,500千円　　　　　　　　　　財源　●●財団の助成事業 500千円 自己収入 2,000千円 |
| 申請事業の実施地域の自治体との連絡調整※審査の参考とするため，選定委員会の事務局から担当課等に問い合わせることがあります。 |
| 自治体名 | 担当課（室） | 担当者氏名 | 連絡先電話番号 |
| ●●市 | ●●部●●課 | 気仙沼　四郎 | 000-0000-0000 |
|  |  |  |  |
| 連絡調整を行った自治体から得られた意見等（申請団体側にて２５０文字以内で簡潔に記入してください。） |
| ・●●地域での実績があるため△△地域においても同様の効果が期待できる。・△△地域では独り暮らしのお年寄りが多いため，孤立化しないための当事業は非常に助かる。・学生も比較的多いため，若者と一緒に何かできるのではないか。 |
| 協力団体等との関係性（別紙記載例を参考に簡潔にご説明下さい。） |
| ●●財団●●●●社団●●当団体 対象外経費分を助成（寄付）広報の協力●●市役所 町内会との連絡調整 |

第２号様式

〈４Ｐ〉

|  |
| --- |
| 取組みのスケジュール（全体の流れ） |
| 4月 | 5日　補助金応募 |
| 5月 | 1日　町内会との連絡調整中旬　町内会とのサロン運営に関する協議下旬　 |
| 6月 | サロン活動月4回のサロン（開催場所●●） |
| 7月 |  |
| 8月 | 墓参り講座（仮）高齢者→若者 |
| 9月 | 着付け講座高齢者→若者 |
| 10月 | スマホ講座若者→高齢者クリスマス会 |
| 11月 |  |
| 12月 | クリスマス会 |
| 1月 |  |
| 2月 |  |
| 3月 | 反省会及び来年度事業計画会 |